

(別紙様式1)

平成 30 年 2 月 5 日

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 大阪市中央区大手前2丁目
管理機関名 大阪府教育委員会
代表者名 教育長 向井 正博 印

1 実施種別

- 幹事校
 幹事校以外

2 研究開発名

「アジアと学び合う一夢を実現する国づくり」

3 研究開発の概要

大阪府立北野高等学校における「全地球的視野と歴史的教養に裏付けられた、豊かな人間性と知識をもち、自国の問題と世界の問題を互いに関係づけて把握し、理想の実現に向けて自ら行動をおこすことができるグローバルリーダーを育成するための教育プログラム研究開発」

以下のような研究内容でプログラムを実施する。

- ・東南アジアの現状と東南アジアの国づくりを知るための研究
- ・フィールドワークの方法等、研究手法の習得に関する研究
- ・論理的説明能力を養成するための統計的手法の習得に関する研究
- ・留学生・研究者をはじめ様々な人々との交流と研究成果の検証評価に関する研究
- ・「超高校生レベル」の英語によるコミュニケーション力を養成する研究
- ・グローバル世界で通用するプレゼンテーション力を養成する研究
- ・海外研修と研究成果向上との相関関係に関する研究

4 事業の実施期間

契約日～平成31年3月29日

5 平成30年度の研究開発実施計画

<添付資料>

- ・目標設定シート
- ・平成30年度教育課程表

①教科・科目の利用

【ステージ1 第1学年】

「総合英語」・「国際情報」等で、ASEAN諸国をテーマとした課題探究型の授業を展開し、情報獲得やディスカッションの方法、プレゼンテーション技術を習得する。

【ステージ2 第2学年】

「異文化理解」の授業等で、国際的課題とその解決に向けたコミュニケーション力を育成する。

【ステージ3 第3学年】

「英語表現」「英語演習C」の授業において、課題研究テーマに即した時事問題や経済論文を読み、社会課題をもとにしたレポートを英語で作成し、次年度のSGH課題研究の資料として利用する。

②大学・企業等との連携探究型講座

【ステージ1 第1学年】

土曜特別講座「学内留学」をSGH課題研究基礎講座と位置づけ、アジア探究のために必須となる、英語を通じた知識習得とディスカッション、および英語による発信力のさらなる向上をめざす。前年度同様5講座で実施する。

また、7月・9月・12月・2月のLHR等を利用して、グローバル化の時代に生きる人材を育成する観点から、「フィールドワークの楽しみ」「英語を生かす方法」「学問のグローバル化」などのテーマで、外部講師を招いた講演の機会を設定する。

【ステージ2 第2学年】(専門的講義の設定)

○SGHアジア探究の中核となる生徒を80名程度募集する(文理融合で募集)。以下のようなテーマで、土曜日・放課後・課題研究の時間(後述)を利用したアジア探究特別講座を受講し、専門的な知見と広い視野を養う。

○連携指導者

京都大学東南アジア研究所准教授岡本正明氏 「東南アジアへのまなざし」

関西学院大学社会学部教授難波功二氏 「広告と文化」

京都大学地域研究統合情報センター西芳実氏 「アチェに見る災害と地域社会」

JETRO助川成也氏 「日本企業とASEAN」

○月曜日5限、木曜日5限に実施。

○可能な限り、上記80名以外の生徒にも参加を呼びかける。

【ステージ2 第2学年】(教科・科目「課題研究」の利用)

○文理学科の全生徒が行う「課題研究」の時間(原則として週1時間)に、SGHアジア探究の中核となる80名も自主探究を行う。探究の基礎として、ステージ1で習得した基礎技術のほか、アジア探究特別講座の諸講義で得た知見も活用する。

○探究の目標を明確とするため、以下の3つのグループに分かれて探究を行う。

I 「東南アジアと考える国づくり」(経済的1・歴史的アプローチ)

II 「英語授業でASEANを学ぶ」(比較文化的アプローチ)

III 「科学技術とASEAN」(経済的2アプローチ)

○グループIとIIIでは、校内スタッフによる基礎講座のあと、少人数に分かれて探究を開始する。7月以降には研究者・院生・留学生・企業研究者とのワークショップの開催を重ね、探究対象国の情報や探究方法に対するアドバイスを得る。

○グループIIでは東南アジアに関する事象、特に移民・多民族社会に関する事象をテーマとした英語授業を依頼し、オールイングリッシュによる探究形式をめざす。

○連携指導者(主な連携者のみ)

京都大学東南アジア研究所准教授岡本正明氏ほか同研究所の先生方・院生・留学生

京都大学工学研究科教授金哲佑氏ほか同研究科の先生方・院生・留学生

株式会社Andeco代表取締役早川慶明氏ほか在阪の企業経営者

③研究発表会

○10/27(土)SGH中間発表会

京都大学・関西学院大学・在阪企業等からの指導助言者を予定

○2/2(土)文理学科・SGH最終発表会

SGHグループと共に文理学科の課題研究全グループが発表

京都大学・関西学院大学・在阪企業等からの指導助言者を予定

第1学年の全生徒にも参加させ、次年度へのステップアップを図る

○2/9(土)GLHS(グローバル・リーダーズ・ハイスクール)10校合同発表会

○3月中旬 第2回近畿地区SGH校・アソシエイト課題研究発表会

④海外フィールドワーク研修

【ステージ2 第2学年】

◇ハワイ 7/22(日)~29(日)に実施予定

移民社会に関する現地フィールドワーク・講演に関する研修とし、SGHアジア探究の深化に資する。

◇シンガポール 7/22(日)～28日(土)に実施予定

現地日系企業・パームオイル工場でのフィールドワークや現地学生との交流を行うほか、探究成果の発表を現地大学または高校で実施する。第2学年だけでなく第1学年の生徒の参加も認め、次年度の探究へのつながりも持たせる。

⑤ S G H 運営指導委員会

年間2回 S G H 運営指導委員会を開催し、 S G H 研究開発事業に対し、専門的な見地から指導・助言・評価を受ける。

⑥ 成果の公表・普及

- ・中間発表会と最終発表会の公開
- ・授業公開と研究協議の実施
- ・英語による学校ホームページの作成
- ・学校ホームページにおいて S G H 活動を公開

⑦ 事業の評価

ルーブリック等、教育学的手法による「生徒の成長の検証」を行う。また、それらのデータをもとに S G H 運営委員やその他大学教授、企業経営者による評価を受ける。

⑧ 報告書の作成

S G H 提言集冊子「これからの日本」及び各種報告書を作成する

6 事業実施体制

	実施場所	事業担当責任者
I 比較文化的アプローチ	大阪府立北野高等学校・京都大学 等	出口学 山本としこ
II 経済的アプローチ1	大阪府立北野高等学校・京都大学 等	
III 経済的アプローチ2	大阪府立北野高等学校・京都大学 等	
IV 歴史的アプローチ	大阪府立北野高等学校・京都大学 等	

7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間(平成30年4月2日～平成31年3月29日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①教科・科目「課題研究」の授業・自主探究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②大学・企業との連携・探究型講演・講義	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③研究発表会							○				○	○
④海外フィールドワーク				○								
⑤運営指導委員会開催							○					○
⑥成果の報告・広報活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦事業評価の実施期間									○		○	
⑧報告書作成											○	○

8 所要経費

別添のとおり

【担当者】

担当課	教育振興室高等学校課	TEL	06-6946-2387
氏名	香月 孝治	FAX	06-6944-6888
職名	主任指導主事	e-mail	KatsukiKo@mbox.pref.osaka.lg.jp